【ねがいましては】

平成２２年６月２４日　　*KYOWA SCHOOL*
第２３６号

「おれバカじゃん」

嬉しくなるときがあります。

S 君は勉強が怖いよーと思っている子のひとりです。怖いと感じている子のタイプにもいろいろです。一番多いタイプは、静かにじっとしているタイプ。次が、ばれないようにと明るく振舞う子。最も少ないタイプが、この、おれバカじゃん、と言ってはっきり認めるタイプです。

S 君は小学校１年生から来ています。新しい『学校』という世界での生活に不安を感じるのは当たり前です。勉強が、ちゃんとできるのかももちろん不安です。そろばん学習からはじめましたが、やはり見せてしまう『小さな逃げ』・・・。

転機が訪れたのは３年生の後半になってから・・・。お姉さんが中学生であり、もともと夜の時間帯に来ていたのに合わせ、週１回でかまわないので一緒に来るよう誘いました。案の定、よくあることなのですが、決めつけ考えが先行し、難色を示しました。「塾へ行ってもどうせやることは勉強でしょ、学校と同じさ・・・。」

その気持ちでスタートするわけですから、なかなか気持も前向きにはなりません。

私は彼の心に寄り添うように、１題ずつメモに問題を書きながら渡します。やがて学校で学んでいる単元より先を行うようになりました。そこからがガラッと変わります。どんどん気持ちが前へ向かい始めます。表情も生き生きとしてきます。

私が感心するのは彼の実直なところです。計算問題を行っていても、イージーミスが出るたびに「おれバカじゃん」と言って、変にいじけるわけでもなく、いたって平常心のままなのです。私は、彼のこの言葉が出るたびに、「ばか」と言って相づちを入れます。「手伝ってあげるね・・・バカ」

教室にも明るい風が吹き込みます。

私は彼のこの発声から、彼をつつんでいるご家族の皆さんの温かさを感じるとともに、毎日の生活が、実にほのぼのとしたもので包まれていることが想像できるのです。いつもにこやかなお母さん、テレビを見、間髪入れて冗談を言いまくるお父さん、負けじとばかりにその冗談に応戦するＳ君、それを見ながら笑っているお姉さん。

理想の家族の姿がそこにあります。

でもやっぱり S 君のちょっと後ろ向きになってしまった勉強に対する気持ちに、お母さんは不安を隠せません。

そのようなときに夜へ来てもらうようになったのです。

今の自分を隠そうとせず、ありのままをしっかりとさらけ出すこと、この心の土台があれば、あとは自分のスピードで自分らしく歩くだけ・・・。ご家族の皆さんもそんな心の変化が現れ始めたＳ君を見、きっと安心なさっているのではないかと思います。

最近、私は彼宛に手紙を書きました。結構自分でも上手く書けた内容かなと思い、すこし紹介します。

美しい姿とはどんなときなのだろう。あるとき、一人の少年が大きなお相撲さんにぶつかっていきます。もちろん周りにいる人たちは跳ね飛ばされる少年を見、クスクスと笑っています。１回、２回、３回、４回・・・・飛ばされても飛ばされても、彼の表情は何一つ変わりません。ただだまってぶつかっていく・・・。そして１００回近くになりました。周りの人たちの目は、先ほどとはまったく違う目に変わっていました。「なぜ、なぜ続けるんだ。」やがて周りの人たちの心の中に、あるものが芽生え始めます。「立派な子だ、私たちはこの子の、この強さに響いている・・・。」

皆、感じ取っていたのです。「これが本当の『強さ』なんだ・・・。」一人の少年が、人々に忘れていたものを取り戻させたのです。教えたのです。言葉を抜きにして、こころを響かせたのです。

といった内容ではなかったか・・・。

生きることとはどういうことなのだろう。それをこの少年は教えてくれたことになります。

負けるとわかっていても、弱いとわかっていても、前向きに生きる。この美しい姿と重なるようにして聞こえるのです。「おれ、バカじゃん。」

S 君がこのような子であったのは、ほかならぬご家族の温かい愛情があってこそです。

きっとご家族すべての方が、自分を隠すことなく心を丸裸にして接していらっしゃるのではないでしょうか。

「見栄とかプライドとか、そんなものどうでもいい、とにかくこうして家族として出会えたこと、良かったね！」ご家族全員がそう感じながら生活なさっている・・・。

ついつい感情にまかせて怒鳴ってしまうお母さん。大きな声を出したくはないのに、気がついてみると、目の前の我が子はしくしく泣いていたり、反抗的な目線１００％で迎え撃っていたり・・・。勉強をバックにした家族の情景には色々なものがあるとは思いますが、今、Ｓ君は安心１００％の中で生活していることと思います。

これからも、そんな『ほのぼの』をそっと見させていただけることを、楽しみにさせていただきます。